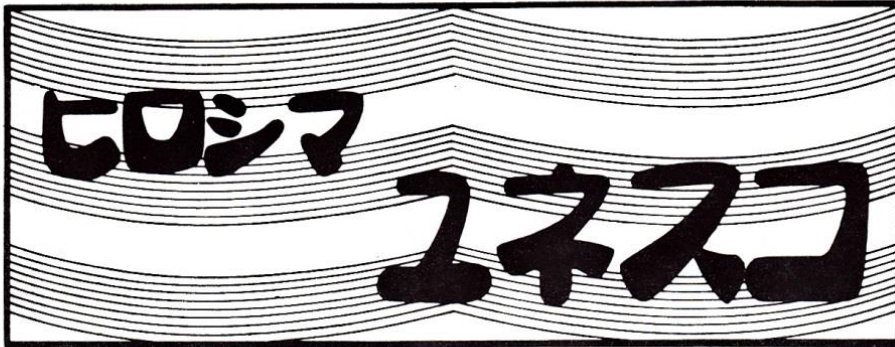


第99回ユネスコ・サロン

日時 4月28日(土) 13時半
 会場 広島アンデルセン
 演題 生活の中の天気
 講師 大平真二さん(気象予報士。NHK 天気キャスター)
 会費 1,000円(茶菓代含む)



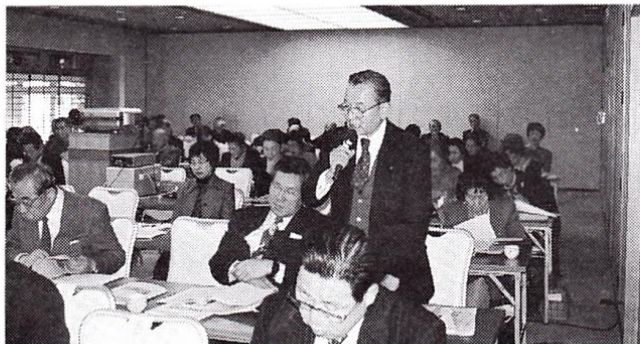
中国ブロック研究会、宮島で開く 世界遺産の地域展開を協議

本年度中国ブロックユネスコ活動研究会は、2月17日、18日、宮島町国民宿舎を会場に、中国地方4県12協会、宮島町民約30名を含む百三名が参加して開かれました。

研究会のテーマは、厳島神社と原爆ドームの二つの世界遺産を持つ広島とあって「世界遺産の地域展開」(地域の遺産を含む)。このテーマとユネスコ活

動全般を巡って二日間、熱心に論議されました。初日の開会式では、主催者挨拶に続いて宮島町長から祝辞を頂戴し、韓国UNESCO協会全達出会長からのメッセージが披露されました。

次いで、「21世紀のユネスコ運動を展望して」と題する基調講演では、日ユ協連村井了理事長が、日本のユネスコ加盟50周



年を迎えた足跡を土台に今後の方向を提起されました。全体会議では各県1名のパネラー(広島は太鼓矢常任理事)が、広島県ユ連・永井会長コーダイネイターのもとでテーマ関連・活動全般の事例報告と意見を述べ、これを軸に会場から活発な意見が相次ぎました。記念講演は、ユネスコ世界遺産計画メンバーでもある広島市立大学国際学部川田順造教授の「世界遺産」私たちはどう継承すべきなのか。アフリカ西端ゴレ島など奴隷貿易の遺跡を、現地調査に基づくスライドを上映しながら、原爆ドーム、アウシュヴィッツ収容所と並ぶ世界の三つの「負の遺産」の「継承」について、「遺産を複眼で見て過去を考え、次世代へ伝えていくことで遺産は生命力を持つ」と強調されました。初日夜の交流会は宮島産の旬の牡蠣が宴卓に上り、宮島町の人々も参加して盛況でした。二日目は、厳島神社野坂元良宮司の文化財保持の秘話と全体会議で全日程を終えました。今回の開催を機に宮島で協会結成の気運が高まり、4月末に結成総会が開かれます。(写真上||全体会議の様相。会場からも活発な意見が||写真下)

2001年度総会

日時 6月16日(土) 13時半
 会場 広島アンデルセン
 議題 2000年度事業報告
 同 決算報告
 2001年度事業計画
 役員改選
 同 予算

第100回ユネスコ・サロン

日時 6月16日(土) 15時
 会場 広島アンデルセン
 スカンジナビアホール
 スポンサーと人生(仮)
 講師 曾根幹子さん(広島市立大学国際学部講師、広島県体協指導者養成委員会副委員長、県・広島市スポーツ振興審議会委員。モントリオール五輪出場。専門/生涯スポーツ論、体育経営管理学)
 会費 千円(茶菓代含む)

第100回ユネスコ・サロン 記念パーティー

日時 6月16日(土) 16時半
 会場 広島アンデルセン
 会費 五千円

ユネスコ新春フェスタ 奨励賞表彰、トークと合唱などを

広島ユネスコ活動奨励賞表彰式と組み合わせ、新春にふさわしいゲストを招いて催す恒例の「ユネスコ新春フェスタ」

(広島市教育委員会後援) は1月27日、広島アンデルセンで、80人が参加して開かれました。

第1部表彰式では、北川建次会長が「今年は、日本のユネスコ加盟50周年、『世界の子どものための平和の文化・非暴力の国際10年』の初年度、そして『ボランティア国際年』。受賞者の活動に学ぶところが大きい」と挨拶。次いで、審査委員長の広島大学中山修一教授から講評が克明に行われました。

表彰式では、受賞団体(※別掲)それぞれに賞状・ブロンズ像が渡され、その後、各代表者から活動状況が報告されました。

第2部は、30年余、崇徳高校で教鞭をとるかたわら同校グリーククラブの指導と指揮にあたってこられた天野守信さんの慈愛に満ちた「音楽と教育」トーク。続いて同氏の指揮、同校グリーククラブOBによる「民謡／音戸の舟歌」「遙かなる友に」などが、男声合唱ならではの響きに乗って歌われ、会場から盛

んな拍手が送られました。
△奨励賞実施経過▽
◇応募／学校部門2校 社会部門14団体
◇受賞者／深川小学校、舟入高校、ひろしまと世界を結ぶ子ども文庫、広島ホームステイ協会、真亀日本語教室、モンゴル・ツエツエグ、H O P E

受賞団体の紹介(その1)

▲広島市深川小学校▽学習単元「もち米づくり」と「広島インターナショナルスクールの子どもと友だちになりたい」(児童)を結び「国際感覚の素地を養う」ため97年、交流を開始。

田植え、稲刈り、餅つき……クリスマス、とんど、日・英語カルタ遊びなどの行事が、両校の子どもの協同で進められた。作業では地域の老人会(稲こぎ)女性会(餅丸め)が披露する技術や知恵を学ぶなど、伝統的産業を教材に異文化理解、コミュニケーション、連帯・協力の能力開発を促進した。

▲広島市立舟入高等学校▽98年に「自分のことばで平和を訴えられる生徒の育成」を眼目に国

際コミュニケーションコースを設置。以来、海外研修で、現地高校訪問、先住民の生活体験、ホームステイを通して異文化理解、交流を深め、原爆と平和を話し合ってきた。

69年に原爆をテーマにした創作劇を上演して以来、今日まで全国大会最優秀などの成果を挙げ、平和の文化の創造を継続してきた。創作では「平和を考え、行動する力を育てる」ため演劇部員(現在55名)が平和学習、聞き取りなどを行う。老人ホームでの上演など地域も重視する。

▲ひろしまと世界を結ぶ子ども文庫▽原爆と環境に関する絵本を送り続けて5年。32カ国(120カ所)へ696冊を届けた。

95年、北京・世界女性会議のNGO(非政府組織)フォーラム出席の広島代表がワークショップで原爆絵本を紹介し、「絵本はことばの壁を超えて平和のメッセージを伝える力がある」

「核兵器廃絶・地球環境保全が共通課題である」ことを確信。翌96年、「ひろしまと中国を結ぶ子ども文庫」を設立。その後、会を「世界を結ぶ」に改称し、インド、パキスタンなどの学校、図書館へと贈呈先を拡大。

この間、外国と交流中の広島市の学校などを活動に組み入れ、推進していった。会員15名。

▲広島ホームステイ協会▽87年以來「在住・来広外国人との相互理解と友好親善を図り、草の根国際交流を推進する」ため一三二カ国から約二千六百人を会員百家族が家庭に迎えてきた。

「来広」外国人は公的機関(外務省など)の依頼による青年招聘事業研修生など。「在住」外国人は広島大学から依頼された研修生・教員研修留学生など。「在住」では「里親的ホストファミリー」として心の支えになる(同会)ため「お客様扱いを排し、人間同士の付き合い」を基本に留学生の生活全般の相談に乗り、心安らぐ場の提供を心掛け、異文化理解も図る。

▲真亀日本語教室▽中国から永

第23回高校生のつどいを実施

第23回広島ユネスコ高校生のつどいが、3月25日、広島大学付属高校で開かれ、主題「共に生きるために」朝鮮半島の歴史と文化に学ぶ」をめぐる、付属高校ユネスコ班が研究発表を行い、広島桜が丘高校の生徒と合わせて14人の高校生が活発に意見を交わしました。

この後、付属高校のユネスコ班指導教員・藤原隆範先生(当協会理事)の進行で、桜が丘高校担当教員・林弘子先生ら両校

住帰国した広島市在住者の40%が安佐北区高陽団地の県営住宅に集中する。彼らは日本語が不自由で日常生活が困難なことから住民、学校、県中国帰国者自立指導員が真亀公民館に相談した結果、日本語指導ボランティアの募集が行われ(99年3月)、主婦、定年退職者らが応募して日本語養成講座を修了、会を結成した(現在20名)。

教室は、韓国、フィリピンなどの人びとも加わり、週2回、約30名が受講している。この間、受講生が講師の料理教室、指導員・受講者と高校との交流、国際交流の集いなどを開く一方、専門の日本語指導者を招いて指導員自らも研修に努めている。

この日、午後から「つどい」の出席者全員が、恒例となった「ユネスコ・コアアクション」街頭募金活動」を中区基町の広島さこう前で行いました。

あいにく、雨の中の活動でしたが、一新された「世界寺小屋運動」の横断幕を背に元気良く声を発する高校生たちの活躍で、二万七千二百五十円の浄財が寄せられました。これは、日ユ協会連盟に届けられ、世界寺小屋運動に役立てられます。



広島市は海外の六つの都市と姉妹・友好提携を結んでおり、本年からそれぞれの都市の「姉妹・友好都市の日」を定めて市民参加の記念行事を開催することになりました。

その初めが「大邱の日」です。現在、約10の広島市の民間団体・大学が大邱市の諸団体と提携して、これらの団体が広島県日韓親善協会を核に実行委員会を構成し、今回の行事を推進します。

昨年、大邱市ユネスコ協会と姉妹協会を提携した当協会も実行委員会に参画し、企画の一つ「大邱大好き」サランへ・テグを担当します。

会期中の諸行事への参加、とりわけ「大邱大好き」への出席を会員に願います。

「大邱の日」「大邱大好き」の概要は次のとおり。

大邱の日

〈行事内容〉

○大邱フェア（4月30日～5月2日、基町クレド・広場）

大邱紹介展示、物産紹介、アトラクション（韓国の歌、音楽演奏など）、観光マップ・記念品配付、ほか

○記念セレモニー（5月2日、前記会場）

○「大邱大好き」サランへ・テグ ※詳細後記

○パーティー（4月30日18時、広島市留学生会館。会費千円）

〈主催〉「大邱の日」実行委員会、広島市、広島平和文化センター
〈後援〉駐広島大韓民国総領事館

サランへ・テグ

〈日時〉4月30日(月) 16時

〈会場〉広島市留学生会館（南区西荒神町1番1号）

〈内容〉大邱市紹介ビデオ上映、在広交流団体活動紹介、トーク「とっておき大邱情報」、ほか

〈出演〉韓国在広大学教授・留学生、韓国テコンドー選手、在広交流団体、ほか

〈その他〉入場無料

友好訪問団日程

広島ユネスコ協会では、韓国ユネスコ大邱協会姉妹提携一周

年を記念し、またユネスコ世界遺産を視察する目的で、大邱友好訪問を行うこととなりました。（会員には既に募集の通知をしています。二十名募集）

◇9月20日（木） 正午広島空港集合、13時45分広島空港発、仁川新国際空港経由でソウル空港発大邱空港着、大邱協会主催歓迎夕食会◇9月21日（金）



市民で組織する「大邱交流協会」は2001年2月8日から11日までの3泊4日で韓国を訪れ、1泊2日で大邱市を訪問した。大邱での訪問並びに視察先は、大邱市役所の国際協力課と大邱観光情報センター、大邱市芸術文化会館、西門（ソムン）市場、慕夏堂（沙也可）、トルアンキルグルメ通りである。

今回の目的は、広島市民との交流をすすめる大邱市民の交流団体の設立を促進くださるよう要請することと、広島市のフラワーフェスティバルにおける大邱市紹介コーナー設置への協力要請、大邱のグルメ、ショッピング、見どころを取材することであった。

バスで慶州市仏国寺訪問、大邱市内観光、広島ユネスコ協会主催夕食会◇9月22日（土） 三乱功臣慕夏堂先生遺跡地（日本名・沙也可）、海印寺（世界遺産）、E-MART（大型スーパーマーケット）、市内観光◇9月23日（日） 8時半大邱空港発、ソウル空港経由13時広島空港着

さて、広島市と友好姉妹都市縁組が結ばれている大邱市を紹介する文献は少なく、インターネットで検索しても僅かしか出てこない。あるホームページに紹介されていたが、出だしは「見どころのない大邱」であった。

今回の訪問でそれが覆された。南北に広がる韓国の中心に位置する大邱市は、文化と流通の中心地となっている。伝統文化を大切に、新しい文化を創造する各種の文化活動が活発に行われ、流通の中心地であることを証明する衣料品や食料品、漢方薬などの各種の大市場が存在している。見どころも、日本と縁のある名所・旧跡、なだらかで美しい山々、整備された公園などがある。

グルメには、郊外レストランが延々と続く「トルアンキル」グルメ通りがお勧めで、韓定食

からカルビ屋、韓国ならではの各種専門店、和食、刺身屋まで揃っている。街中には日本の居酒屋風の飲み屋も多く、夜は遅くまで若者でにぎわっている。元気のいい都市である。

もちろん、ショッピングも充実している。人口250万人の大都市だけあって、前述の市場をはじめ、デパートやショッピングセンターも数多くあり、こちらも若者で賑わっている。韓国の都会は昼も夜も若者で溢れている。とにかく活気がある。

大邱ではこちらから声をかけないと市民は相手にしてくれないが、話しかけると、とても親切に対応してくれる。ソウルは日本人が多いが、大邱は日本人にとって未開拓の観光地であるといえる。広島からの交通便はいま一つであるが、友好姉妹都市として一層友好の絆を深めていくとともに、これからの観光にぜひお勧めしたい都市である。

今年9月あたり、広島ユネスコ協会も訪問団を派遣する予定になっている。両市の繁栄と市民の相互理解促進、そして両市民の協働によるアジアの平和と発展への貢献に期待したい。

（理事・岡平裕次）

考える一歩を 広島で得た

杉並ユ協青年部

原水禁運動発祥の地の東京・杉並ユ協青年部から、一昨年の大学生、昨年の高校生に次いで今年も高校生12名(引率2名)が3月26日來広。4日間、広島

原爆資料館、本川小学校平和資料館、高橋昭博副会長の「証言」、碑巡り(案内は岩本節子さん/語り部)、旧日本銀行広島支店、宮島・厳島神社などを見学・研修をしました。

この程、参加者の一人から便りが届きましたので紹介します。

今回のツアーで、私は今まで難しいからと避けてきた戦争と核兵器の話題を、自分自身でよく考えようと思っていた。戦争体験がないということは幸せなことだけれど、それだけ理解に苦しんだのも事実である。数字で聞く規模や死者の数は、私にとって計り知れないものであり、実際のつらい体験を語って下さった高橋さん、岩本さんの状況に自分を置いて想像してみても、最初はピンとこなかったのだ。

しかし、多くの体験や意見を聞き、展示物を見ているうちに、ふと人間一人ひとりの存在を考へて悲しくなった。それまで被爆されたたくさんの方々と考えたのが、一人ひとりの同じ人間として考えられるようになって。そして同時に、戦争のおそろしさを痛切に感じた。

軍の指揮をしたのも、エノラ・ゲイ号を操縦していたのも同じ人間であった。彼らは上空から小さく見える広島の街を見下したとき、そこに自分たちと同じサイズの生命があることを感じたのだろうか。おそらく感じなかつたか、もしくは感じるこゝとが許されていなかったのではないかと思う。戦争はそのような感覚をマヒさせると聞いたことがある。そうでないと生きていられないということだ。戦争のおそろしさはそこにあると思

った。様々な観点から核兵器所有の正当性を主張する意見がある。私はそれも一理あると考えていた。しかし国家間の戦争を単に国と国との戦いと考えるのではなく、それぞれの国に国民一人ひとりの生活があることを考えれば、戦争や核兵器の使用を正当化することはできないと思う。戦争と核兵器について私の理解はまだまだ足りないが、その一歩を踏みだせたことは大きな進歩であった。

宮島では乱暴な鹿さんと格闘しながらも大変楽しい一日を過ごした。今回のツアーに誘っていただけなのに心から感謝し、またこのツアーを支えていただいた皆様に深くお礼申しあげます。(杉並ユ協青年部 菅又英子 高二)

国際交流・協力の日 広島ユ協も出展

広島市の民間国際交流団体が一堂に会する「国際交流・協力の日」(広島平和文化センター、広島市ひと・まちネットワーク

など主催)が一月十四日、広島国際会議場を主会場に開かれ、

そのほかバザー・コーナー、ステージでの民族衣装ショー・日本語スピーチ・コンテストなど各団体が得意のプログラムを組んで参加しました。

当協会のコーナーには会長以下、スタッフが詰め、訪れた人にユネスコのパンフレットを渡し説明し、その中の一人が入会を申し込まれ、二人が中国ブロック活動研究会に参加されるという成果もありました。

曾野綾子さん(作家)の講演をはじめ多彩な催しですが、国際色豊かに展開されました。当協会は実行委員会に参画するとともに紹介展示コーナーに出展、世界遺産と世界寺小屋運動のパネルを展示して終日、来場者にアピールしました。

この種の催しは、初の試みとあって各団体とも積極的で、紹介展示コーナーには23団体が、

日誌

6日 / 中プロ研究会推進委員会
9日 / ユネスコ活動奨励賞審査
20日 / 機関誌第50号発行
14日 / 国際交流・協力の日参加 (平和文化センター主催)
27日 / 新春フェスタ2001 (ユネスコ奨励賞表彰式)
10日 / 中プロ研究会推進委員会
17日 / 中国ブロックユネスコ活動研究会 (宮島)
14日 / 文化部会
17日 / 98回ユネスコ・サロン
「原民喜の文学」『夏の花』が私たちに語るもの」
松元寛・広島大学名誉教授

予告

17日 / 理事会
25日 / 高校生のついで(広大付属) コアクション(そごう前)
26日 / 「大邸の日」実行委員会
26日 / 杉並ユネスコ協会来広
28日 / 役員選考委員会
6日 / 「大邸の日」実行委員会
20日 / 「大邸の日」実行委員会
27日 / 「大邸の日」実行委員会
28日 / 第99回ユネスコ・サロン 「生活の中の天気」 大平 眞一・気象予報士
30日 / 「大邸の日」大邸大 好き」(広島ユ協主催) 広島留学生会館
9日 / 民間ユネスコ運動全国大会
10日 / (岐阜)
16日 / 2001年度総会
第百回ユネスコ・サロン
同記念パーティー
21日 / 第一〇一回 ユネスコ・サロン「広島音楽公演事情」(仮) 大野雅史音楽プロデューサー / 理事会